

# インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：1月レポート

野村亮輔（研究推進部）  
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）  
松林洋一（APIR 上席研究員）  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

## ポイント

### ● 2月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 3)、**1月の訪日外客総数(推計値)は149万7,300人と、前月(137万人)から増加し、150万人に迫る水準となった。**2019年同月比では-44.3%(前月：同-45.8%)と、**コロナ禍前の5割強の回復**となっている。なお、**訪日中国人客を除いた総数では146万6,100人(同-24.2%)となり、コロナ禍前の7割強である。**出国日本人数は44万3,100人、2カ月連続で40万人超の水準となった(同-69.5%)。日本における水際対策緩和と円安の影響もありインバウンド需要は急回復しているが、アウトバウンド需要の回復は緩やかである。

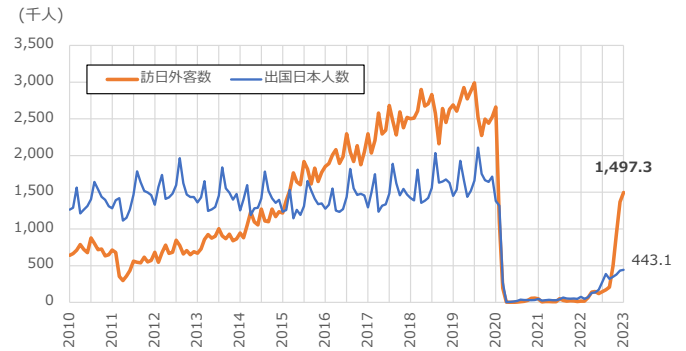
▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図 2 及び表 3)、**韓国が56万5,200人(2019年同月比-27.5%)と最多であった。**2019年7月(56万1,675人)以来、**単月で50万人超の水準**となり、2019年平均(46万人)を上回った。次いで台湾が25万9,300人(同-33.1%)、香港が15万1,900人(同-1.6%)、米国が8万8,100人(同-14.6%)、タイが6万3,400人(同-31.6%)と続く。なお、中国は3万1,200人(同-95.9%)と依然低水準にとどまっており、回復が遅れている。

▶ **目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、11月は93万4,599人となった(2019年同月比-61.7%)(図 3 及び表 4)。**うち、**観光客は77万3,983人となった(同-63.9%)。**前月(32万6,699人)から大幅増加し、**20年2月(89万8,976人)以来の水準**となった。**商用客は8万1,921人(同-52.3%)、その他客は7万8,695人(同-36.6%)**であった。

▶ 観光客のTOP5を国・地域別にみれば、11月は韓国が**29万3,344人(2019年同月比+78.3%)と最多で、19年7月(51万7,548人)以来の水準**となった。次いで台湾が9万1,896人(同-75.5%)、香港が8万1,008人(同-58.4%)、米国が7万219人(同-43.3%)、タイが4万8,390人(同-63.9%)と続く。なお、中国は8,796人(同-98.7%)であった。

▶ 先行きの訪日外客数については、水際対策の更なる緩和により一層の回復が見込まれよう。これまで続いていた中国からの入国者に対する水際対策の強化が、3月1日から緩和された。このため、これまで回復が遅れていた訪日中国人客数の増加が見込まれ、訪日外客数の回復ペースは加速すると考えられる。

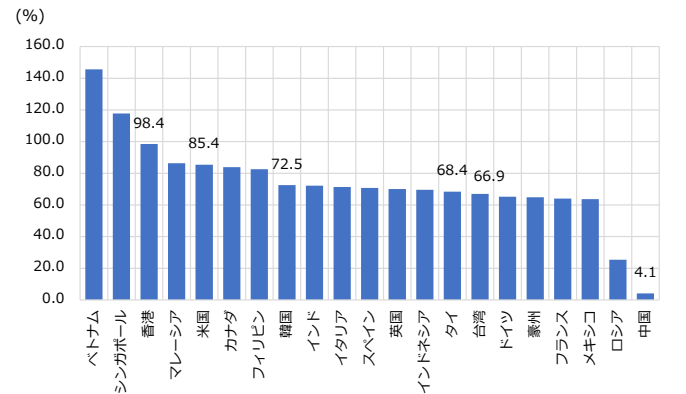
図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 2021年まで確定値、22年1-11月は暫定値、12月、23年1月は推計値

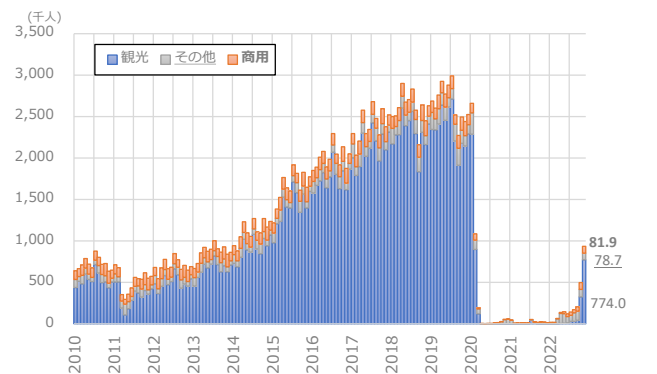
図 2 国・地域別コロナ禍前との水準比較：23年1月



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

注) なお、TOP5の国・地域は値を表示している。

図 3 目的別訪日外客数推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

\*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意ください。

## トピックス 1

### ● 1月関西の財貨・サービス貿易及び12月のサービス産業動向

▶ 関西1月の輸出は前年同月比-0.2%と23カ月ぶりに減少した(図4)。中国の春節休暇の時期のズレもあり、前月(同+9.5%)から伸びは減速。一方、輸入額は同+7.2%と24カ月連続で増加した(前月:同+16.6%)。結果、関西の貿易収支は-2,802億円と5カ月ぶりの赤字となった(同+72.3%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西1月の対中輸出は前年同月比-12.4%と前月(同+0.2%)から大幅減速し、9カ月ぶりに減少した。輸出減に寄与したのは非鉄金属や半導体等製造装置等であった。一方、対中輸入は同+2.9%と9カ月連続の増加(前月:同+4.4%)。輸入増に寄与したのは無機化合物やがん具及び遊戯用具等であった。

▶ 1月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は37万9,298人と、前月(33万1,249人)に引き続き30万人超の水準となった。2019年同月比では-45.4%と前月(同-48.6%)から縮小。訪日中国人客の回復が遅れていることもあり、回復のペースは緩やかである。また、日本人出国者数は6万3,437人で、前月(6万4,060人)から幾分減少した。2019年同月比では-78.0%と、10カ月連続で減少幅は縮小しているが(前月:同-81.4%)、インバウンド需要に比してアウトバウンド需要の回復のペースは緩慢である。

▶ 12月のサービス業の活動は小幅悪化だが、持ち直し傾向を維持。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み:2015年平均=100)をみれば(図7)、12月は99.7で前月比-0.4%低下し、3カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+0.1%)。また、対面型サービス業指数\*は90.9となり同-1.6%低下し、3カ月ぶりのマイナス(前月:同+1.4%)。うち、運輸業(同-4.5%)やその他生活関連サービス業(同-3.6%)が低下した。結果、10-12月期の第3次産業活動指数は99.9、前期比+0.4%上昇し2四半期ぶりのプラス(7-9月期:同-0.0%)。また、対面型サービス業は90.7、同+1.5%上昇。3四半期連続のプラスとなり、前期(同+0.5%)から伸びは加速した。

▶ 観光関連指数\*\*(2015年平均=100)は、85.5と前月比+1.3%上昇し、2カ月ぶりのプラス(前月:同-1.6%)(図7)。感染が再拡大していたものの、行動制限が取られなかったこともあり、飲食店・飲食サービス業(同+5.4%)が2カ月ぶりに上昇した(前月:同-8.6%)。10-12月期は85.2、前期比+4.8%上昇し、2四半期ぶりのプラス(7-9月期:同-1.2%)。全国旅行支援や水際対策の緩和もあり、宿泊業(同+14.8%)や旅行業(同+42.0%)が大幅上昇した。

\*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

\*\*観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

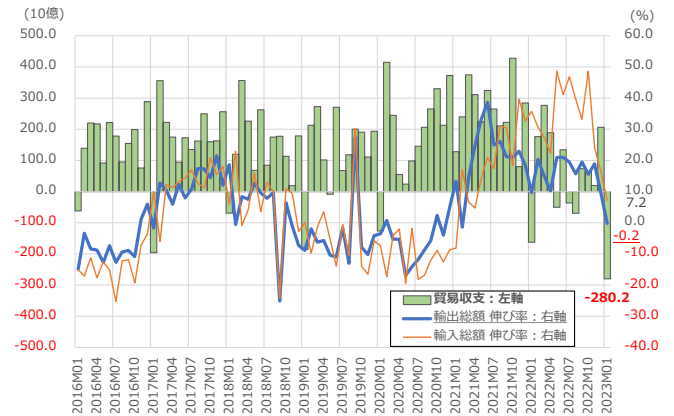
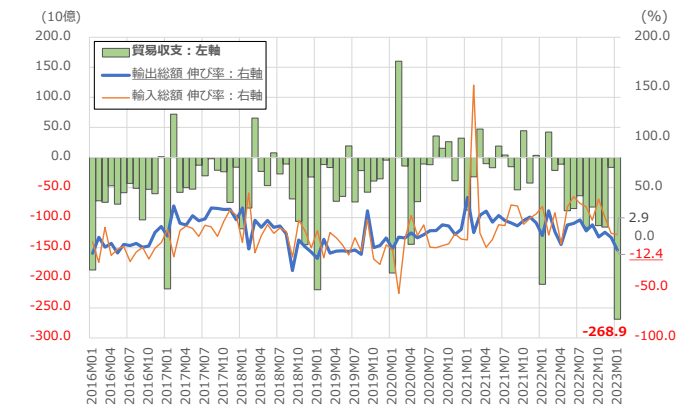
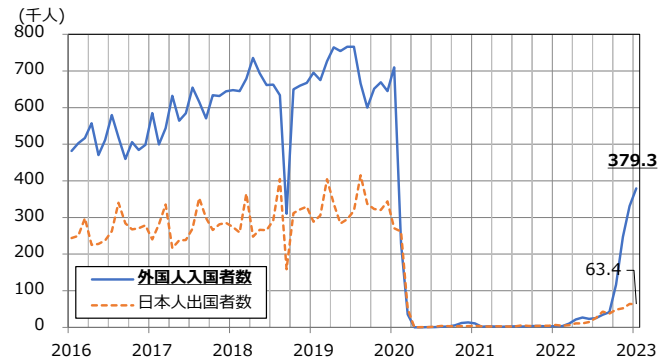


図5 関西 対中貿易の推移



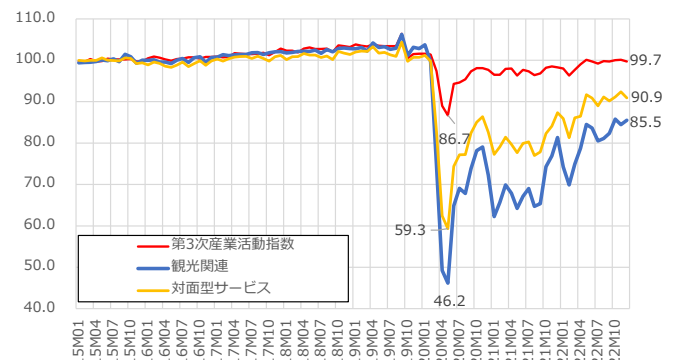
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2023年1月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業:2015年=100



出所:経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 11月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、11月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は10,070.4千人泊であった(表1)。2019年同月比-7.3%と前月(同-16.0%)から減少幅縮小。全国旅行支援事業や水際対策緩和の継続により、日本人宿泊者及び外国人宿泊者数が回復しつつある。

▶日本人延べ宿泊者数は8,915.0千人泊、2019年同月比+11.2%と2カ月連続で増加した(前月：同+10.8%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,926.0千人泊、京都府2,426.7千人泊、兵庫県1,225.6千人泊、三重県712.4千人泊、滋賀県365.4千人泊、和歌山県355.4千人泊、福井県305.0千人泊、奈良県230.2千人泊、鳥取県204.7千人泊、徳島県163.7千人泊であった。2019年同月比でみると、京都府が同+40.0%(6カ月連続)、大阪府が同+13.1%(2カ月連続)、兵庫県が同+11.0%(2カ月連続)、奈良県が同+8.6%(2カ月連続)、三重県が同+0.3%とそれぞれプラスとなった。

▶外国人延べ宿泊者数は1,155.4千人泊と前月(555.9千人泊)から倍増した。2019年同月比-59.3%と減少幅は前月(同-81.5%)から大幅縮小(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府596.9千人泊、京都府476.0千人泊、兵庫県30.5千人泊、和歌山県18.4千人泊、滋賀県9.2千人泊、奈良県8.0千人泊、三重県7.5千人泊、徳島県4.4千人泊、福井県2.3千人泊、鳥取県2.3千人泊であった。2019年同月比でみると、京都府(同-56.4%)、大阪府(同-57.7%)を中心に回復している。京都府や大阪府は5割程度の回復となっているが、他府県では2~3割程度の回復にとどまっている。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別で見ると(図10)、県内の延べ宿泊者数は1,648.1千人泊(2019年同月比+28.9%)、県外は8,179.1千人泊(同-8.9%)であった。伸びをみれば、県内は14カ月連続のプラス。また、県外は前月(同-20.6%)から減少幅が縮小した。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

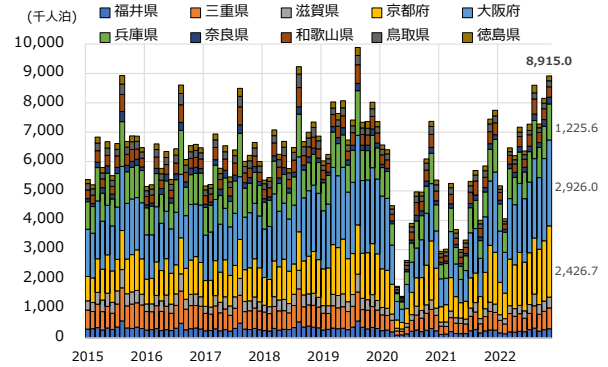


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

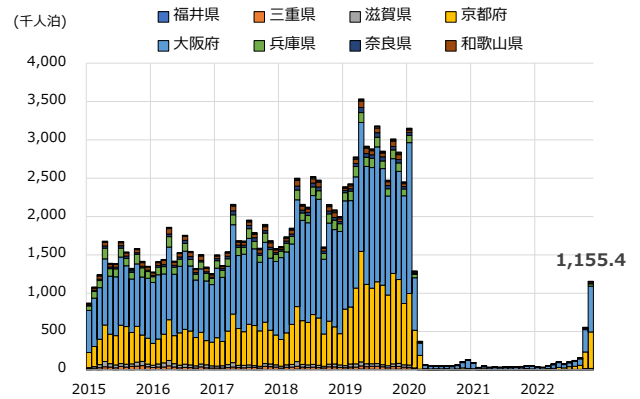
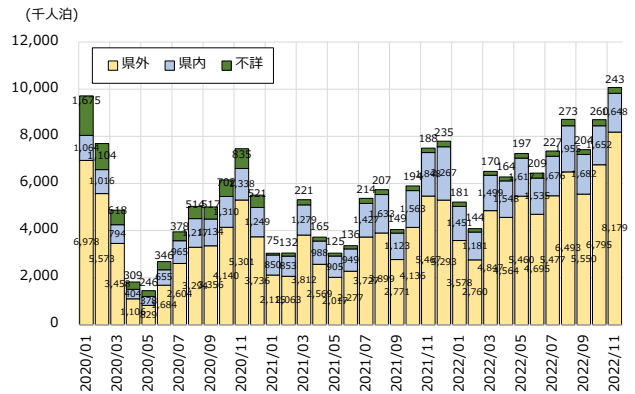


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：11月

2022年11月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)
福井県	307.3	15.0	-15.1	305.0	14.4	-13.3	2.3	268.3	-76.7
三重県	720.0	14.2	-3.4	712.4	13.2	0.3	7.5	555.7	-78.2
滋賀県	374.5	18.8	-16.6	365.4	16.3	-10.5	9.2	916.7	-77.6
京都府	2,902.7	48.6	2.7	2,426.7	25.2	40.0	476.0	3,009.1	-56.4
大阪府	3,522.8	58.6	-11.9	2,926.0	33.6	13.1	596.9	1,742.1	-57.7
兵庫県	1,256.1	16.2	3.5	1,225.6	13.7	11.0	30.5	876.6	-72.2
奈良県	238.3	21.9	-7.0	230.2	18.5	8.6	8.0	543.2	-81.8
和歌山県	373.8	-8.9	-24.9	355.4	-13.3	-17.9	18.4	2,145.1	-71.4
鳥取県	206.9	-21.6	-25.5	204.7	-22.3	-21.1	2.3	380.9	-87.7
徳島県	168.1	2.5	-28.8	163.7	0.4	-25.9	4.4	326.2	-71.3
関西2府4県	8,668.1	40.3	-6.2	7,529.2	23.0	16.2	1,138.9	2,017.0	-58.8
関西2府8県	10,070.4	34.2	-7.3	8,915.0	19.7	11.2	1,155.4	1,924.2	-59.3
全国	46,092.7	24.8	-7.2	42,268.4	15.5	4.1	3,824.3	1,044.8	-57.8

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~10及び表1)

### トピックス 3

#### ● 2022年10-12月期国内旅行消費の動向：関西2府8県\*

▶観光庁によれば、2022年10-12月期関西(2府8県ベース)の国内旅行消費額(速報)は1兆2,651億円であった(表2)。2019年同期比+25.5%とコロナ禍前を上回った(7-9月期：同-7.2%)。10月11日から開始された全国旅行支援事業が国内旅行需要回復に大きく影響した。2022年通年では4兆2,581億円、19年比+3.1%となった(全国：17兆1,695億円、同-21.7%)。経済活動の正常化に加え、国内旅行需要喚起策の影響もあり、関西ではコロナ禍前を上回った。

▶うち、**宿泊旅行消費額**は、1兆630億円で2019年同期比+41.5%となり、7-9月期(同-3.8%)からプラスに転じた(図13及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、三重県2,879億円(同+320.9%)、大阪府2,392億円(同+3.0%)、京都府1,871億円(同+34.9%)、兵庫県1,135億円(同-20.8%)、和歌山県592億円(同+223.8%)、徳島県451億円(同+16.1%)、福井県392億円(同+13.7%)、滋賀県384億円(同+68.7%)、鳥取県318億円(同+32.7%)、奈良県216億円(同-28.5%)であった。兵庫県と奈良県を除く府県ではプラスとなり、うち、**三重県と和歌山県は大幅増加した**。

▶うち、**日帰り旅行消費額**は2,021億円で2019年同期比-21.3%と7-9月期(同-17.5%)からマイナス幅は拡大した(図14及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府556億円(同-20.0%)、京都府380億円(同-36.4%)、兵庫県356億円(同-12.1%)、三重県247億円(同+36.6%)、奈良県177億円(同+79.3%)、和歌山県96億円(同+97.4%)、滋賀県84億円(同-63.8%)、福井県63億円(同-61.0%)、鳥取県37億円(同-48.3%)、徳島県25億円(同-67.0%)であった。**和歌山県、奈良県や三重県では大幅プラスとなった**。

\*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

図13 関西2府8県 宿泊旅行消費額の推移

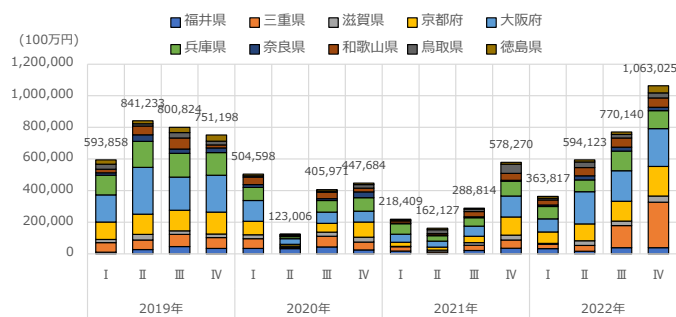
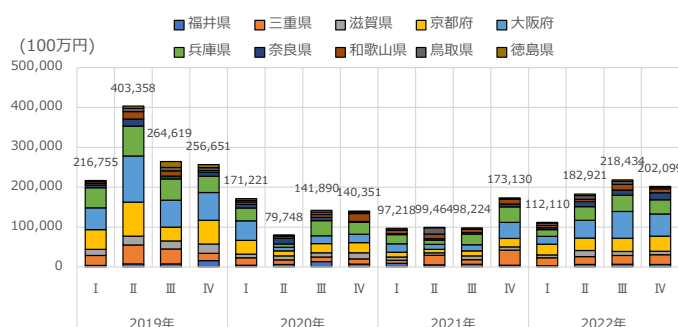


図14 関西2府8県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2021年、22年7-9月期までのデータは確報。22年10-12月期は速報

(上図も同様)。

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表2 関西 国内旅行消費額：2022年10-12月

2022Q4	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	伸び率： 前年同期比(%)	伸び率： 19年同期比(%)	金額： 100万円	伸び率： 前年同期比(%)	伸び率： 19年同期比(%)	金額： 100万円	伸び率： 前年同期比(%)	伸び率： 19年同期比(%)
福井県	45,472.0	14.8	-10.1	39,170.3	12.0	13.7	6,301.7	35.3	-61.0
三重県	312,607.8	248.7	261.6	287,945.0	452.8	320.9	24,662.8	107.2	36.6
滋賀県	46,864.5	19.2	1.7	38,440.3	23.1	68.7	8,424.2	-1.0	-63.8
京都府	225,104.3	65.6	13.4	187,096.9	63.5	34.9	38,007.4	159.9	-36.4
大阪府	294,841.7	70.1	-2.3	239,225.5	79.9	3.0	55,616.2	437.2	-20.0
兵庫県	149,089.3	12.6	-18.9	113,516.8	21.2	-20.8	35,572.5	47.5	-12.1
奈良県	39,322.6	201.5	-1.9	21,587.8	260.4	-28.5	17,734.8	288.2	79.3
和歌山県	68,803.1	23.3	197.2	59,166.3	35.3	223.8	9,636.8	23.4	97.4
鳥取県	35,419.1	-39.4	14.2	31,766.9	-44.9	32.7	3,652.2	1,090.7	-48.3
徳島県	47,600.2	243.6	2.6	45,109.6	291.0	16.1	2,490.6	65.1	-67.0
<b>関西2府8県</b>	<b>1,265,124.5</b>	<b>68.4</b>	<b>25.5</b>	<b>1,063,025.3</b>	<b>83.8</b>	<b>41.5</b>	<b>202,099.1</b>	<b>137.3</b>	<b>-21.3</b>

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。



表3 2023年1月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)
	1月	1月		1月	1月	
総数	2,689,339	1,497,300	-44.3	2,689,339	1,497,300	-44.3
総数(中国除く)	1,863,265	1,413,400	-24.1	1,863,265	1,413,400	-24.1
韓国	779,383	565,200	-27.5	779,383	565,200	-27.5
中国	754,421	31,200	-95.9	754,421	31,200	-95.9
台湾	387,498	259,300	-33.1	387,498	259,300	-33.1
香港	154,292	151,900	-1.6	154,292	151,900	-1.6
タイ	92,649	63,400	-31.6	92,649	63,400	-31.6
シンガポール	22,676	26,700	17.7	22,676	26,700	17.7
マレーシア	31,399	27,100	-13.7	31,399	27,100	-13.7
インドネシア	32,477	22,600	-30.4	32,477	22,600	-30.4
フィリピン	35,987	29,700	-17.5	35,987	29,700	-17.5
ベトナム	35,375	51,500	45.6	35,375	51,500	45.6
インド	12,468	9,000	-27.8	12,468	9,000	-27.8
豪州	81,063	52,600	-35.1	81,063	52,600	-35.1
米国	103,191	88,100	-14.6	103,191	88,100	-14.6
カナダ	22,293	18,700	-16.1	22,293	18,700	-16.1
メキシコ	3,615	2,300	-36.4	3,615	2,300	-36.4
英国	21,554	15,100	-29.9	21,554	15,100	-29.9
フランス	15,320	9,800	-36.0	15,320	9,800	-36.0
ドイツ	11,358	7,400	-34.8	11,358	7,400	-34.8
イタリア	6,033	4,300	-28.7	6,033	4,300	-28.7
ロシア	4,382	3,100	-29.3	4,382	3,100	-29.3
スペイン	6,316	1,600	-74.7	6,316	1,600	-74.7
中東地域	3,936	4,000	1.6	3,936	4,000	1.6
その他	71,653	52,700	-26.5	71,653	52,700	-26.5

表4 2022年11月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	11月	11月		11月	11月		11月	11月		11月		
総数	2,441,274	934,599	-61.7	2,145,425	773,983	-63.9	171,723	81,921	-52.3	124,126	78,695	-36.6
韓国	205,042	315,421	53.8	164,558	293,344	78.3	24,167	14,099	-41.7	16,317	7,978	-51.1
中国	750,951	21,016	-97.2	676,675	8,796	-98.7	36,519	4,692	-87.2	37,757	7,528	-80.1
台湾	392,102	99,533	-74.6	374,926	91,896	-75.5	11,285	5,257	-53.4	5,891	2,380	-59.6
香港	199,702	82,989	-58.4	194,857	81,008	-58.4	3,610	1,452	-59.8	1,235	529	-57.2
タイ	140,265	52,077	-62.9	134,178	48,390	-63.9	3,700	1,942	-47.5	2,387	1,745	-26.9
シンガポール	65,295	40,321	-38.2	61,188	37,739	-38.3	3,749	2,377	-36.6	358	205	-42.7
マレーシア	64,987	17,519	-73.0	61,118	15,632	-74.4	3,041	1,466	-51.8	828	421	-49.2
インドネシア	37,213	16,960	-54.4	30,129	10,109	-66.4	3,538	1,987	-43.8	3,546	4,864	37.2
フィリピン	64,763	21,689	-66.5	57,552	16,167	-71.9	2,910	1,798	-38.2	4,301	3,724	-13.4
ベトナム	41,892	33,584	-19.8	18,580	10,146	-45.4	4,443	2,810	-36.8	18,869	20,628	9.3
インド	14,863	8,357	-43.8	5,855	2,450	-58.2	6,190	3,709	-40.1	2,818	2,198	-22.0
豪州	48,327	20,193	-58.2	42,991	16,982	-60.5	3,521	2,319	-34.1	1,815	892	-50.9
米国	148,993	84,289	-43.4	123,839	70,219	-43.3	20,448	11,212	-45.2	4,706	2,858	-39.3
カナダ	33,316	15,868	-52.4	29,873	14,170	-52.6	2,462	1,234	-49.9	981	464	-52.7
メキシコ	6,494	2,037	-68.6	5,858	1,623	-72.3	484	311	-35.7	152	103	-32.2
英国	37,709	13,607	-63.9	30,045	8,771	-70.8	5,894	3,820	-35.2	1,770	1,016	-42.6
フランス	24,290	10,810	-55.5	18,391	7,258	-60.5	4,510	2,733	-39.4	1,389	819	-41.0
ドイツ	19,525	9,673	-50.5	12,361	5,072	-59.0	6,078	4,027	-33.7	1,086	574	-47.1
イタリア	12,350	5,237	-57.6	9,282	3,261	-64.9	2,557	1,654	-35.3	511	322	-37.0
ロシア	13,142	1,975	-85.0	9,282	1,325	-85.7	3,012	416	-86.2	848	234	-72.4
スペイン	10,535	3,622	-65.6	9,128	2,682	-70.6	1,027	734	-28.5	380	206	-45.8
中東地域	9,836	6,522	-33.7	7,970	4,942	-38.0	1,372	1,038	-24.3	494	542	9.7
その他	99,682	51,300	-99.5	66,789	22,001	-99.7	17,206	10,834	-99.4	15,687	18,465	-98.8

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2 注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2023年2月15日付より筆者加工